

5 障がい者のケア

対 象	精神障がい者
対 応	<ul style="list-style-type: none"> ○服薬中断がある場合には服薬再開を図る ○自宅・避難所での孤立化に注意する ○ゆっくりと本人の気持ちに耳を傾ける ○生活に必要な情報を適宜伝えていく
対 象	知的障がい者
対 応	<ul style="list-style-type: none"> ○家族等と協力する ○わかりやすい説明と具体的な情報伝達 ○災害前の生活ができるような配慮 ○何かで落ち着かない時は刺激から遠ざける ○著しい興奮状態等、対処困難な場合は医師に相談する
対 象	発達障がい者
対 応	<ul style="list-style-type: none"> ○家族等と協力して関わり方を確認する ○個別に配慮すべき事項（必要な物品・居場所・話しかけ方等）の把握 ○わかりやすい説明と具体的な情報伝達 ○災害前の生活ができるような配慮 ○健康状態や居場所に関する個別配慮
対 象	視覚障がい者
対 応	<ul style="list-style-type: none"> ○話す前に名乗る ○誘導介助は支援者が前に立ち肘の上をつかんでもらいゆっくり歩く ○言葉で周囲の状況を具体的に説明する
対 象	聴覚障がい者
対 応	<ul style="list-style-type: none"> ○正面からゆっくり話す ○筆談の準備 ○補聴器使用者には大声で話さない
対 象	肢体不自由者・内部障がい者
対 応	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な補装具（杖、車いす等）を用意する ○通路に障害物を置かない ○塩分・水分・薬の管理・人工透析条件の把握 ○医療機関からの指示・対処方法の把握



6 遺族等のケア

対象	遺族・安否不明者の家族
対応	<ul style="list-style-type: none">○話をさえぎらずに聞く○気がねなく悲嘆の感情を表現できる場の確保○体験を話すことを強要しない○できないことを「できる」と言わない○「その気持ち、わかります」など、安易に同調しない○悲嘆のプロセスには個人差があることを理解する○二次被害を与えないようにする（不用意な言葉や態度など）○行方不明者の家族を、うっかりと遺族として対応しないよう注意する○精神障がい併存に注意する○自殺念慮や自殺企図に注意する

POINT

複雑性悲嘆

死別体験による急性期の悲嘆反応は、誰にでも起こりうる反応です。しかし、**その反応が長期に強いまま持続している状態**を「複雑性悲嘆」と呼びます。以下のような悲嘆症状が複数存在して遷延化しているために、**日常生活や社会生活および対人関係に大きな支障を来す**こととなります。

- 死を受け入れられない
- 故人を追い求める、渴望する
- 強い孤独感、空虚感
- 自分が生きているのが不公平で無意味だと感じる
- 故人のことで頭が一杯になる、没頭して考える
- 死別や故人にまつわることを回避する

複雑性悲嘆の反応が見られた場合、専門機関につなぐ必要があります。

